

第 25 回社会福祉士国家試験【専門科目①(問題 84～問題 118)】

やまだ塾の解答速報(1月27日実施分)

2013年2月1日 17:00 掲載

問題 85 : 正解を①⑤としたが, ⑤が誤りの場合も想定でき, 「不適切問題」の可能性を指摘する。

- 変更はその都度行う。(変更分は青字で表示する)

科目	問題	やまだ塾の解答	(参考) 簡易解説
社会調査の基礎(7問)	84	④	(短文事例) <調査の企画(目的と方法)> ④正確で信頼性の高いデータを得るためには, 全数調査が望ましい。また, 経費削減できる点, 広範囲を対象にできる点, 調査者の人的影響を排除できる点から, 郵送調査法(自記式)が適切である。
	85	正解を①⑤としたが, ⑤が誤りの場合も想定でき, 「不適切問題」の可能性を指摘する。	<p>■正解を①⑤としたが, ⑤が誤りの場合も想定でき, 「不適切問題」の可能性を指摘する。</p> <p><標本調査の長所と短所> ①母集団から取り出された一部(標本)から母集団を推測するのであるから, 全体を調査しないことによる誤差(標本誤差)が生じる可能性はある。 ⑤標本調査は, 母集団から取り出された一部(標本)から母集団を推測するものであり, 全数調査ができない場合や, 全数を調べなくても高い精度で全体を推測できると考えられる場合などに行われる。なお, 設問の「すべての人が同じ確率で」という設定に疑義がある。</p>

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2013 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

			<p>他の選択肢を見れば、</p> <p>②面接調査における回答の信頼性の高さ、サンプルを確実に把握できる点から、全数調査であれば誤差は少ない。標本サイズを大きくすれば誤差は小さくなるが、誤差が生じないと言い切れない。また、全数調査を行わずに標本調査を行ったことにより生ずる差のことを「標本誤差」といい、それ以外の、例えば誤回答や未回答による誤差を「非標本誤差」という。「誤差が生じない」としているのが、誤りである。</p> <p>③非確率標本法(有意抽出法)は、調査者の主観的な判断によって「母集団を代表すると思われる標本(サンプル)」を抽出する方法で、確率標本法(無作為抽出法)と比較すると客観性が低くなるので、誤りである。</p> <p>④無作為抽出によって、ある程度多数の標本を集めると、推計結果は安定し、精度の高い推計結果が得られるので、誤りである。</p>
	86	④	<p><測定の尺度水準></p> <p>④比率尺度は、ゼロ点(原点)が明確に定義される特性を持っている。間隔尺度は、数値間の差(間隔)の等しさは保障されているが、原点は任意で、ゼロ点をもっていない。</p>
	87	①④	<p><社会調査におけるデータ収集方法></p> <p>①郵送調査の場合は、回収率が低くなりがちなので、回答を督促する「督促状」を送ることがあり、送付文書を事前に準備しておく。</p> <p>④バイアスとは、本当の姿からの「ズレ」を表したものである。集会的な効果や会場の雰囲気などによってバイアスがかかり、調査結果の信頼度は落ちる可能性がある。</p>
	88	③	<p><変数の散布度(パラつき、散らばり具合)></p> <p>③四分位とは、調査されたデータを低い方から順に並べ、全体を4つのグループに分けた</p>

		<p>場合の3つの境界に当たる値である。低い方から25%点(第1四分位), 50%点(第2四分位又は中位数), 75%点(第3四分位)と呼び、この75%点と25%点の差を四分位範囲といい、散らばりの程度を表す尺度のひとつである。</p>
89	②	<p><社会調査の結果をグラフで図示する際の留意点></p> <p>②レーダーチャートは、複数のデータ(指標)を一つのグラフに表示することにより、全体の傾向をつかむのに用いられる。</p>
90	⑤	<p><調査手法としての観察法></p> <p>⑤参与観察の妥当性を高めるためには、その集団での社会的な適合が大切であり、その集団の一員となって振舞えるかどうか重要である。集団に参加するためには、研究対象に同化する必要がある。そうしなければ、相手に心を開いてもらえないし、良質のデータは収集できない。もともと、調査対象に密着しすぎた場合に、冷静な調査ができにくくなるという短所をもった手法である。「望ましくない」という表現は適切ではないが、誤りともいえないと考える。</p> <p>他の選択肢を見れば、</p> <p>①あらかじめ観察すべき内容を計画して行う統制的観察法で集められたデータの収集も、「量的データの収集」であるので、誤りである。</p> <p>②統制的観察法は、観察の対象・内容・方法などを標準化し、非統制的観察法は、標準化しないという違いがあるので、誤りである。</p> <p>③フィールドワークにおいては、「完全なる参加者」「観察者としての参加者」「参加者としての観察者」「完全なる観察者」と役割タイプに分かれるが、状況に応じて同一の調査者</p>

		<p>がこのタイプを行き来し、固定的なものではないので、誤りである。</p> <p>④現場でメモをとることが緊張感を生む場合もあるため、臨機応変に、いったん現場を離れてから記録をとることもあり得るので、誤りである。</p>
相談援助の基盤と専門職 (7問)	91	<p>③⑤</p> <p><社会福祉士が行った支援機能に当たるもの></p> <p>③「エンパワメントは、個人や集団が自分の人生の主人公となれるように力をつけて、自分自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくことである」と説明されている。</p> <p>⑤「アドボカシーは、社会運動的には、個人や集団が、その本来享受すべき個人や集団の権利が侵害されている事態に周囲の意識を喚起し、権利の回復や実現を促し、「自分らしく生きてゆく力を高める」ために必要な活動の総体を指す」と説明されている。(DINF)</p>
	92	<p>①</p> <p><ソーシャルワークのアメリカにおける専門職化></p> <p>①第22回国家試験の問題86に「リッチモンドの提案に基づいて、ニューヨークで6週間に及ぶ博愛事業に関する講習会が始めて開催され、専門教育へ発展していった」というのがあった。夏期養成講座や講習会は「応用博愛夏期学校」のことである。</p>
	93	<p>④</p> <p><ブトゥリムが示したソーシャルワークの3つの価値前提(「人間尊重」「人間の社会性」「人間の変化の可能性)」></p> <p>④ブトゥリム:『ソーシャルワークとは何か-その本質と機能-』に明記。</p>
	94	<p>②</p> <p>(短文事例)<児童福祉司(社会福祉士)の対応></p> <p>②虐待事例には多くの困難な要因(条件)が複雑に関与しているため、一機関、一専門家</p>

			では対応が困難で、福祉、保健、医療、教育機関などの相互の連絡が不可欠である。 (「子ども虐待対応の手引き」)
	95	③	<p><児童虐待を担当する児童福祉司(社会福祉士)の守秘義務></p> <p>③児童虐待防止法第7条において、「市町村、都道府県の設置する福祉事務所又は児童相談所が前条第7項の規定による通告を受けた場合においては、当該通告を受けた市町村、都道府県の設置する福祉事務所又は児童相談所の所長、所員その他の職員及び当該通告を仲介した児童委員は、その職務上知り得た事項であつて当該通告をした者を特定させるものを漏らしてはならない。」と規定されている。</p>
	96	②	<p><ソーシャルワークの専門職倫理></p> <p>②例えば、児童福祉法61条において、児童相談書職員は「正当な理由」がなければ、守秘義務が厳格に適用される。一般に、「正当な理由」は、(1)法律で(提供することが)義務とされている場合、(2)本人の承諾がある場合、(3)他人の正当な利益を保護することとの比較において、秘密を提供する方が重要である場合、と解されている。</p> <p>・なお、社会福祉士の倫理綱領等では、以下の通りである。</p> <p>倫理綱領-倫理基準-1)利用者に対する倫理責任-10において、「社会福祉士は、利用者の援助のために利用者に関する情報を関係機関・関係職員と共有する場合、その秘密を保持するよう最善の方策を用いる」とされ、行動規範9-2において、「社会福祉士は、利用者の支援の目的のためにのみ、個人情報を使用しなければならない。」とされている。</p>

	97	⑤	<p><ジェネラリスト・アプローチ></p> <p>⑤ジェネラリスト・アプローチとは、実質的にはどのような問題に対しても、多様なレベルの介入により分析し、問題解決に取り組むことを意味している。目指す方向性は諸問題に取り組むことであり、個人だけではなく、集団、組織、そして主要な社会政策をも援助の対象としてとらえ、ミクロ、メゾ、マクロ的な視点から援助の過程で展開する。</p>
相談援助の理論と方法 (21問)	98	②	<p><ベルタランフィの「一般システム理論」を構成する概念></p> <p>②「ベルタランフィが、特に注目したのは、開放形の動的均衡システムであり、そこでは、外界と物質代謝が行われつつ、システムとしての恒常性が保たれている」と説明されている。</p>
	99	④	<p>(短文事例) <家族システムの視点に基づいた社会福祉士の対応></p> <p>④「家族システムの特徴は、(1)家族は、複数の個人が相互に結びつき構成するシステムである、(2)サブシステムの構造化に応じて、勢力の配分と階層ができる、(3)家族内では個人の自立性に諸段階がある、(4)家族内の相互作用・コミュニケーションには、独特の構造と過程がある、(5)家族システムは、時間の経過に伴って変化するが、その過程には諸段階がある」と説明されている。</p>
	100	④	<p>(短文事例) <社会福祉士による生活モデルに基づいた対応></p> <p>④「生活モデル」においては、人間の生存のために必要な資源を提供するものの総体が、環境と定義されている。人と環境のインターフェースに焦点をあてていく。「生活モデル」は、「選別・隔離的発想に基づく社会福祉のあり方から、ソーシャルインクルージョン理念に基づく社会福祉への移行を根拠づける</p>

			もの」という説明が分かりやすい。
	101	④	<p><相談援助における「個人」と「環境」をめぐる諸説></p> <p>④残念ながら、筆者は、④の正否をコメントできないので、消去法で解答した。</p> <p>その他の選択肢を見れば、</p> <p>①ジャーメイン:「人と環境の相互作用」における生活モデルを提唱→誤り。</p> <p>②ホリス:「状況の中にある人間」「人と状況の全体関連性」の概念を用いた心理社会的アプローチを提唱→誤り。</p> <p>③パールマン:診断派の立場に立ちつつ機能派の理論を取り入れた「問題解決モデル(アプローチ)」を体系化→誤り。</p> <p>⑤ゴスチャ:ストレングスモデルで著名なアメリカカンザス大学のリック・ゴスチャ氏(第24回でも出題)→誤り。</p>
	102	①⑤	<p><課題中心アプローチ></p> <p>①課題中心モデルは、折衷アプローチである。伝統的なケースワークのモデルは、問題の根源にさかのぼり、原因を究明してそこからの解決を図ろうとする立場であるが、それに対峙する処遇モデルは、現在利用者を困らせている問題を取り上げ、現在の時点での解決を図ろうとする対場を取る。</p> <p>⑤課題中心モデルは、伝統的ケースワークの長期にわたる処遇への批判から、短期の計画的援助を提唱した。解決の目標も、問題の根本的な解決より、身近な解決や受け入れられる解決などが優先化された目標となることが多い。</p>
	103	②	<p><ソーシャルワークのアプローチ></p> <p>②他者に関心を向け、他者から見る。</p>

104	③	<p>(短文事例) <社会福祉士による援助としての社会生活技能訓練に基づく支援></p> <p>③アセスメントを行い, 社会生活を送る上で必要な適応的な行動を身につけやすいように目標を設定し, 目標に向けた行動練習を, ロールプレイを用いて行う。</p>
105	②	<p>(短文事例) <相談員(社会福祉士)の対></p> <p>②「本人中心」という考えを念頭に, 相談者の立場や心情を共感的に受け止め, 傾聴する。共感や支持, 繰り返しといった技法を活用し, 根拠のない場当たりな応答は厳に慎まなければならない。</p>
106	②	<p>(短文事例) <総合病院のソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応></p> <p>②アルコール依存症者にとって, 治療と並行して, 断酒会などの自助グループ(セルフヘルプグループ)に参加することは, 「断酒」を継続するためには極めて効果的である。</p>
107	③	<p>(短文事例) <生活相談員(社会福祉士)によるグリーフケア></p> <p>③苦しみを理解し, 本人の意向を中心に, 本人主導でより自由に話せる雰囲気をつくり, できる限り要求に耳を傾ける。</p>
108	②	<p>(短文事例) <ソーシャルワーカー(社会福祉士)の効果測定></p> <p>②当面の効果測定としては, 複数ケースによるモニターでの傾向の把握でよいが, 他の選択肢を含めた「支援開始後の危機介入に関する実態調査」が必要と思われる。</p>
109	②	<p><解決志向アプローチにおける質問法></p> <p>②スケーリング・クエスチョンは, 「クライアントの観察, 印象, 予測などを1から10の尺度に置き換える質問」である。</p>
110	③	<p>(短文事例) <この段階で社会福祉士のとるべき対応></p> <p>③「繰り返し」は, 面接の中で大切な意味をも</p>

			つ言葉, 相手が強く訴えたいと考えている言葉を選んで, その相手の言葉をフィードバックしていく面接技法である。
	111	②	(短文事例) <社会福祉士が行ったケアマネジメントの実践モデル> ②「利用者指向モデル」は, 必要なサービスを利用者に結びつけるだけケアマネジメントではなく, 利用者をその中心におき, 利用者を尊重するという視点を実現するために, 面接が位置づけられているケアマネジメントである。
	112	①④	(短文事例) <相談員(社会福祉士)の対応> ①「乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)」は, 実施主体が市町村(特別区)で, 生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し, (1)育児等に関する様々な不安や悩みを聞き, 相談に応じるほか, 子育て支援に関する情報提供等を行う, (2)親子の心身の状況や養育環境等の把握及び助言を行い, 支援が必要な家庭に対し適切なサービス提供につなげるものである。 ④「養育支援訪問事業」は, 実施主体が市町村(特別区)で, 家庭内での育児に関する具体的な援助(産褥期の母子に対する育児支援や簡単な家事等の援助など)を行うものである。
	113	④	<社会福祉施設内でのケース会議開催の留意点> ④ケース会議は, グループワークの利点を生かして, 事例提供者や参加者の成長につなげる運営を図る必要がある。職員教育として, 「会議内容の要約を参加メンバーで交代して作成し, 共有する」ことは適切である。

114	②	<p><グループワークの作業期における援助者の役割></p> <p>②作業期では、メンバー同士の関係や集団力動を利用し、グループが目標に向かって作業に取り組むことを支援するが、いろいろなところで葛藤ができたり、いろいろなサブグループができたり、分裂したり融合したりするが、様子を見ながら、グループ活動を静観することも必要である。</p>
115	⑤	<p>(短文事例) <児童館の職員(社会福祉士)によるグループワークの終結期における対応></p> <p>⑤終結期では、メンバーとともにグループ活動を振り返り、メンバー自身にプログラム評価や自己評価をしてもらうなど、次の活動に生かせるよう援助する。</p>
116	②⑤	<p>(短文事例) <参加者の変化に見られるようなグループ活動の効果を表すもの></p> <p>②観察効果は、他のメンバーの行動を観察する機会がもたらす効果で、ロールプレイを観察しただけでも、効果があるとされている。</p> <p>⑤普遍化は、メンバーの中に共通の問題を発見することによる効果である。</p>
117	③	<p><社会福祉士が部下の社会福祉士に対して行うスーパービジョン></p> <p>③「管理的・評価的機能」は、ソーシャルワーカーが、所属する機関の一員として適切な行動がとれるように指導するとともに、援助内容などの点検を行う。</p>
118	③	<p><相談援助における記録></p> <p>③利用者の感情や心の動き、しぐさや表情、援助者が受けた印象も記述する。</p>